

1 調査日 平成23年7月26日(火)

2 調査の概要

(1) 県立近代美術館(大津市瀬田南大萱町)

県立近代美術館は、昭和59年に開設以来、美術作品の収集、保管、展示の機能を果たしてきた。

近年においては、展覧会観覧者数が長期的に減少傾向にあることなどの課題が顕在化する一方で、美術を通じた子ども達への教育機能や地域社会への貢献など、公立美術館に求められる社会的役割や期待も増大してきている。



県では、平成26年に県立近代美術館が開館30周年を迎えることを機に、県立近代美術館機能・発信力強化検討委員会を設置し、今後求められる館運営のコンセプトや事業展開のあり方について検討を行っているところである。

こうしたことから、施設の概要および運営状況について調査を行い、また会議に出席された友の会会員の方々と意見交換を行った。

(2) ボーダーレス・アートミュージアム NO-MA(近江八幡市永原町上)

2004年に開館した「ボーダーレス・アートミュージアム NO-MA」は、近江八幡市の歴史ある伝統的建造物群保存地区にあり、昭和初期の町屋の和室や蔵などを活かして改築したもので、滋賀県社会福祉事業団が運営するミュージアムである。

NO-MAは、障害者の絵画、陶芸などの表現に芸術性を見だし、その作品の保存・活用および人材の育成を行うなど、全国に先駆けてアール・ブリュットの振興に取り組んできたところである。



こうしたことから、施設の概要や運営状況等について調査を行った。

(3) 県立文化産業交流会館 (米原市下多良二丁目)

県立文化産業交流会館は、多目的な用途に利用できる県下最大規模約2,000人収容のイベントホールを中心に、小劇場、会議室、IT体験プラザ、文化教室、文化観光サービスコーナー、交流交歓ロビー、海外旅券窓口等の施設を有し、各種団体に大会や集会、会議、展示会等の利用目的に貸し出しを行っている。



また、文化事業においても、ポップスコンサートやクラシック、フリーマーケット等多ジャンルの催しものを開催し、滋賀県の文化並びに産業の交流拠点として県東北部地域の活性化に寄与しており、この8月には、明治時代の芝居小屋「長栄座」復活事業を企画しているところである。

こうしたことから、施設の概要や運営状況等について調査を行った。

(4) JR琵琶湖線米原駅 (米原市米原)

今年で開業から123年目を迎えるJR琵琶湖線米原駅は、新幹線・東海道本線・北陸本線・近江鉄道を結ぶ広域交通の結節点として、現在も重要な役割を担っている。米原駅では、平成21年に駅舎の橋上化により東西自由通路が完成して以降、さらに湖国の玄関口としてふさわしい駅になるよう整備を続けているところである。



こうしたことから、工事の概要等について調査を行い、工事現場の視察を行った。